

科目名	リハビリテーション研究入門																																		
科目責任者	吉本 好延																																		
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春 semester																																		
科目の位置付	リハビリテーション分野の最新の専門知識・技術を習得し、論理的思考力を身に付けて諸課題の解決に向けて分析することができる。																																		
科目概要	研究方法の種類・分類などに関する学修をします。各担当者が自身の代表的な研究及び/または各関心領域の優れた研究について紹介致します。研究疑問を抱くに至った経緯、研究テーマの決定、目的、方法（対象、データ収集方法、データ処理法）、結果、考察、結論、限界、展望などについて分かりやすく解説します。また、研究遂行上の問題点、苦勞した点、工夫した点、研究から得たもの、失敗などの体験談も含まれます。																																		
到達目標	1. 研究方法の種類・分類について説明出来る 2. 各担当者から紹介・解説された研究が、研究法の分類上どの方法にあたるかを分析できる 3. 研究テーマに対して適切な研究方法を用いることの重要性を理解する																																		
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回： 転倒予防の最前線</td> <td>吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第 2 回： リハビリテーション研究の最前線（1）</td> <td>山内克哉</td> </tr> <tr> <td>第 3 回： リハビリテーション研究の最前線（2）</td> <td>山内克哉</td> </tr> <tr> <td>第 4 回： リハビリテーション領域における QOL 研究の動向</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（1）</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 6 回： 近年のメンタルヘルスに関する研究動向とその実際</td> <td>新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 運動器障害に対する研究</td> <td>根地鳴誠</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 発達領域における研究</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 9 回： 高次脳機能障害のリハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 10 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（2）</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 11 回： 実験形態学研究</td> <td>顧 寿智</td> </tr> <tr> <td>第 12 回： 高齢者の地域リハビリテーション</td> <td>片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 13 回： 透析患者のリハビリテーション</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 14 回： 0～1 歳児における補聴器装用の支援と関連要因の検討</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 15 回： 随意嚥下時の大脳血流増加部位に関する脳機能画像研究</td> <td>柴本 勇</td> </tr> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 1～15 回</p>					第 1 回： 転倒予防の最前線	吉本好延	第 2 回： リハビリテーション研究の最前線（1）	山内克哉	第 3 回： リハビリテーション研究の最前線（2）	山内克哉	第 4 回： リハビリテーション領域における QOL 研究の動向	泉 良太	第 5 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（1）	ゲストスピーカー	第 6 回： 近年のメンタルヘルスに関する研究動向とその実際	新宮尚人	第 7 回： 運動器障害に対する研究	根地鳴誠	第 8 回： 発達領域における研究	伊藤信寿	第 9 回： 高次脳機能障害のリハビリテーション	片桐伯真	第 10 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（2）	ゲストスピーカー	第 11 回： 実験形態学研究	顧 寿智	第 12 回： 高齢者の地域リハビリテーション	片桐伯真	第 13 回： 透析患者のリハビリテーション	矢部広樹	第 14 回： 0～1 歳児における補聴器装用の支援と関連要因の検討	大原重洋	第 15 回： 随意嚥下時の大脳血流増加部位に関する脳機能画像研究	柴本 勇
第 1 回： 転倒予防の最前線	吉本好延																																		
第 2 回： リハビリテーション研究の最前線（1）	山内克哉																																		
第 3 回： リハビリテーション研究の最前線（2）	山内克哉																																		
第 4 回： リハビリテーション領域における QOL 研究の動向	泉 良太																																		
第 5 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（1）	ゲストスピーカー																																		
第 6 回： 近年のメンタルヘルスに関する研究動向とその実際	新宮尚人																																		
第 7 回： 運動器障害に対する研究	根地鳴誠																																		
第 8 回： 発達領域における研究	伊藤信寿																																		
第 9 回： 高次脳機能障害のリハビリテーション	片桐伯真																																		
第 10 回： 地域リハビリテーション研究の最前線（2）	ゲストスピーカー																																		
第 11 回： 実験形態学研究	顧 寿智																																		
第 12 回： 高齢者の地域リハビリテーション	片桐伯真																																		
第 13 回： 透析患者のリハビリテーション	矢部広樹																																		
第 14 回： 0～1 歳児における補聴器装用の支援と関連要因の検討	大原重洋																																		
第 15 回： 随意嚥下時の大脳血流増加部位に関する脳機能画像研究	柴本 勇																																		
学修方法	研究方法等に関する教員とのディスカッション、 グループディスカッション担当者から紹介・解説された論文が、研究法のどの分類にあたるかを分析・理解する。																																		
評価方法	授業への出席・ディスカッションへの参加：50% レポート：50%（次のいずれか一つ ①この科目から学んだこと、②それぞれの研究の発展段階から見た分類と方法から見た分類。 40 字 x 40 行 3, 4 枚程度）																																		
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。																																		
指定図書	なし																																		
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考																														

参考書	なし				
<u>書籍名</u>	<u>著者</u>	<u>発売元出版社</u>	<u>価格</u>	<u>ISBN</u>	<u>媒体種別／備考</u>
事前・ 事後学修	必要に応じて各担当者が連絡します				
オフィス アワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	内部障害リハビリテーション学
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	様々な疾患における健康に関連する physical fitness の臨床的研究について検討する。physical fitness が障害される発生机序, 病態・障害像, 治療に関する病理学的思考プロセスについて考察し, リハビリテーション実践の根幹を探求する。
到達目標	1. 様々な疾患の physical fitness の障害を理解する。それぞれの病態に応じた, リハビリテーションアプローチを理解する。
授業計画	<p><担当教員名>矢部広樹, 有菌信一, 金原一宏, 根地嶋誠, 俵祐一, 高橋大生</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎機能障害の physical fitness の特徴と課題 (1) 矢部広樹 腎機能障害の physical fitness の特徴と課題 (2) 矢部広樹 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題 (1) 俵祐一 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題 (2) 俵祐一 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題 (3) 有菌信一 呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題 (4) 有菌信一 疼痛患者の physical fitness の特徴と課題 (1) 金原一宏 疼痛患者の physical fitness の特徴と課題 (2) 金原一宏 がん領域の physical fitness の特徴と課題 (1) 高橋大生 がん領域の physical fitness の特徴と課題 (2) 高橋大生 腎臓内科領域の臨床と研究動向 (1) 石川英昭 腎臓内科領域の臨床と研究動向 (2) 石川英昭 循環器内科の臨床と研究動向 (1) 大島覚 循環器内科の臨床と研究動向 (2) 大島覚 内部障害リハビリテーションの多職種連携 (1) 矢部広樹 <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回</p>

学修方法	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す				
評価方法	課題の取り組み (50%), プレゼンテーション (50%)				
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	講義は英語と日本語で行います。本科目は遠隔での受講は可能です。授業課題，研究課題に係る論文などを探索し，理学療法に関する研究領域を学び，修士研究のテーマ，研究方法を検討する。				
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 矢部広樹研究室：3516 研究室時間については，初回授業時に提示します。上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。				

科目名	生活環境リハビリテーション学		
科目責任者	藤田 さより		
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春semester		
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる。3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる。		
科目概要	生活環境の概念および生活環境と作業との関連、生活環境が人や作業に及ぼす影響について学修する。また、様々な領域における生活環境との関係を学び、実際の臨床および研究動向を調査する。		
到達目標	1. 生活環境の概念について説明できる。 2. 生活環境が人や作業に及ぼす影響について説明できる。 3. 様々な領域における生活環境との関係および最近の動向を説明できる。		
授業計画	<p>担当教員：藤田さより，新宮尚人，伊藤信寿，泉 良太，佐野哲也，鈴木達也</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：障害と生活環境</p> <p>第3回：人-環境-作業-作業遂行モデル</p> <p>第4回：生活環境とリハビリテーション</p> <p>第5回：生活環境と発達支援</p> <p>第6回：生活環境とメンタルヘルス</p> <p>第7回：障害者の生活環境支援</p> <p>第8回：生活環境と研究</p> <p>第9回：就労支援の環境整備</p> <p>第10～14回：</p> <p>生活環境に関する「学会，研究会，研修会等に参加」、「視察・調査」、「書籍・文献研究」のいずれかを選択・実施し、レポートを作成する。</p> <p>レポート内容は、「生活環境とリハビリテーション」をテーマについてまとめる。並行して15コマ目の発表準備を行う。</p> <p>第15回：発表および討論会</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>泉 良太</p> <p>伊藤信寿</p> <p>新宮尚人</p> <p>佐野哲也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>全教員</p> </td> </tr> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～9回、第15回 実務家教員や実務家による授業：第1～9回、第15回</p>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：障害と生活環境</p> <p>第3回：人-環境-作業-作業遂行モデル</p> <p>第4回：生活環境とリハビリテーション</p> <p>第5回：生活環境と発達支援</p> <p>第6回：生活環境とメンタルヘルス</p> <p>第7回：障害者の生活環境支援</p> <p>第8回：生活環境と研究</p> <p>第9回：就労支援の環境整備</p> <p>第10～14回：</p> <p>生活環境に関する「学会，研究会，研修会等に参加」、「視察・調査」、「書籍・文献研究」のいずれかを選択・実施し、レポートを作成する。</p> <p>レポート内容は、「生活環境とリハビリテーション」をテーマについてまとめる。並行して15コマ目の発表準備を行う。</p> <p>第15回：発表および討論会</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>泉 良太</p> <p>伊藤信寿</p> <p>新宮尚人</p> <p>佐野哲也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>全教員</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：障害と生活環境</p> <p>第3回：人-環境-作業-作業遂行モデル</p> <p>第4回：生活環境とリハビリテーション</p> <p>第5回：生活環境と発達支援</p> <p>第6回：生活環境とメンタルヘルス</p> <p>第7回：障害者の生活環境支援</p> <p>第8回：生活環境と研究</p> <p>第9回：就労支援の環境整備</p> <p>第10～14回：</p> <p>生活環境に関する「学会，研究会，研修会等に参加」、「視察・調査」、「書籍・文献研究」のいずれかを選択・実施し、レポートを作成する。</p> <p>レポート内容は、「生活環境とリハビリテーション」をテーマについてまとめる。並行して15コマ目の発表準備を行う。</p> <p>第15回：発表および討論会</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>泉 良太</p> <p>伊藤信寿</p> <p>新宮尚人</p> <p>佐野哲也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>全教員</p>		

学修方法	第1回～9回までは、講義、PBLを中心に実施する。第10回～14回は各自で主体的に行動し、レポートを作成する。第15回は発表および討論会を実施する。				
評価方法	レポート（50%）、発表（30%）、ディスカッションへの参加状況（20%）により評価する。				
課題に対するフィードバック	各回の講義の中でディスカッションを実施する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	臼田滋編：Closslink 生活環境学、メジカルビュー社、2023。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：各回の予習テーマを提示する。事後学修：講義で学修したことについてより深く学修する。				
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3515 時間については、初回授業時に提示します。上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	嚥下障害リハビリテーション学	
科目責任者	柴本 勇	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋 semester	
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。	
科目概要	<p>正常な摂食嚥下メカニズムを理解し、摂食嚥下障害の症状・病態・原因・支援法を学ぶ。リハビリテーション学を学ぶものとして、学際的なチームアプローチを理解する。神経疾患、発達障害、器質的病変等で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、各疾患の特徴に合致したアプローチ法について学ぶ。本科目では疾患由来に特化せず、発達や加齢に伴う嚥下機構の変化についても学ぶ。ビデオ、スライド等の視覚教材を利用し解説する。また、実際の臨床実践の見学や症例検討等のディスカッションの見学を通じ、臨床最前線の知識や治療を学ぶ。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常嚥下のメカニズムを説明できる 2. 嚥下障害引き起こす疾患や病態を説明できる 3. 具体的な評価・治療方法を説明できる 4. 嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査の分析・記録・報告ができる 5. 嚥下障害者の栄養管理を説明できる 6. 現状の臨床実践について説明できる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：正常嚥下のメカニズム・病態・症状</p> <p>第 2 回：嚥下障害の評価</p> <p>第 3 回：嚥下障害の医学的検査</p> <p>第 4 回：嚥下障害の治療・訓練（基礎的嚥下訓練）</p> <p>第 5 回：嚥下障害の治療・訓練（直接訓練）</p> <p>第 6 回：頭頸部がん患者の摂食嚥下リハビリテーション</p> <p>第 7 回：小児期の嚥下障害(病態・症状・評価・訓練)</p> <p>第 8 回：嚥下障害に対する外科的治療</p> <p>第 9 回：嚥下食、栄養管理</p> <p>第 10 回：摂食嚥下リハビリテーションと工学技術（基礎）</p> <p>第 11 回：摂食嚥下リハビリテーションへの工学技術の活用(応用)</p> <p>第 12 回：人工知能を用いた摂食嚥下リハビリテーション</p> <p>第 13 回：センシング技術の応用と摂食嚥下リハビリテーション</p> <p>第 14 回：嚥下障害の臨床実践 診断から治療への戦略と実行</p> <p>第 15 回：嚥下障害の臨床実践（総合討論 倫理も含む）</p>	<p><担当教員名></p> <p>柴本 勇</p> <p>柴本 勇</p> <p>重松 孝</p> <p>佐藤豊展</p> <p>柴本 勇</p> <p>谷谷信一</p> <p>柴本 勇</p> <p>重松 孝</p> <p>柴本 勇</p> <p>佐々木誠</p> <p>佐々木誠</p> <p>佐々木誠</p> <p>佐々木誠</p> <p>藤島一郎</p> <p>藤島一郎</p>
	<p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1～15 回</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第 1～15 回</p>	

学修方法	Webclass を活用し、資料配布・動画分析の自己学習・事前及び事後学修課題を実施する。遠隔システムを用いた学修も可能。				
評価方法	講義での課題遂行 60%、事前学習課題遂行 20%、レポート・文献等課題発表 20%				
課題に対するフィードバック	Webclass を活用し、フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	各回で出される課題について自己学習し、授業内でディスカッションをする。臨床現場での症例や遭遇したできごとなどの情報を積極的に持ち寄り、受講者で議論しながら解決方法を探っていくことも行う。				
オフィスアワー	教員個別に設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				

科目名	新生児リハビリテーション学
科目責任者	大城 昌平
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児医療の発展により、近年では NICU（新生児集中治療室）から、発達支援及びリハビリテーション、フォローアップ、そして地域療育まで一貫した取り組みがなされるようになってきている。 ・新生児リハビリテーションプログラムでは、NICU・GCU、フォローアップ外来及び継続的リハビリテーションにおける新生児及び乳幼児の発達支援とリハビリテーションの実施に必要な専門的かつ実践的な評価と治療・支援の理論と技能の修得を目指す。 ・その基盤科目として、新生児リハビリテーション学では、胎児・新生児の生理学、神経行動発達学、対象となる児（早産、脳障害、内部障害、神経難病など）の病理・病態、及びリハビリテーションの実践に必要な発達評価及び治療・支援の理論と方法を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児リハビリテーションの実践に必要な基礎知識（胎児・新生児の生理学、神経行動発達学、対象児の病理・病態など）を説明できる。 ・リハビリテーションの実践に必要な各種の評価方法および治療・支援について説明できる。 ・症例発表および検討を通じて、新生児リハビリテーションを系統的（理論立てと一貫性）かつ包括的（理論と実践の両面から）に説明できる。
授業計画	<p>担当：大城昌平・田中なつみ</p> <p>第1回：新生児リハビリテーション総論 第2回：新生児リハビリテーションの対象となる疾患と関連する医学的管理 第3回：胎児・新生児の神経行動発達 第4回：ディベロップメンタルケア/新生児の個別的発達ケア評価プログラム（NIDCAP） 第5回：発達評価① Brazelton 新生児行動評価 第6回：発達評価② Dubowitz 神経学的評価法 第7回：発達評価③ General Movements (GMs) の評価 第8回：発達支援とリハビリテーションの実際① 発達支援とリハビリテーションの科学的背景とエビデンス 第9回：発達支援とリハビリテーションの実際② ポジショニング 第10回：発達支援とリハビリテーションの実際③ 新生児の呼吸理学療法 第11回：発達支援とリハビリテーションの実際④ 感覚・運動発達の支援 第12回：発達支援とリハビリテーションの実際⑤ 哺乳と摂食の支援 第13回：発達支援とリハビリテーションの実際⑥ 親子の関係性支援 第14回：症例検討① 第15回：症例検討②</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回</p>
学修方法	講義形式です。Zoom システムを用いたオンラインで行います。
評価方法	課題の取り組み(50%)、プレゼンテーション(50%)

課題に対するフィードバック	担当教員より、発表とディスカッションの際、フィードバックする				
指定図書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
新生児リハビリテーション	編集 本田憲胤/神谷猛/大城昌平	メディカルプレス	5,280円(税込)	978-4-910614-15-1	紙
参考書	下記記載のとおり				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
子どもの感覚運動機能の発達と支援ー発達の科学と理論を支援に活かすー改訂第2版	編集 儀間裕貴/大城昌平	メジカルビュー社	5,940円(税込)	978-4-7583-2251-5	紙
事前・事後学修	指定図書「新生児リハビリテーション」を読んで授業に参加してください。				
オフィスアワー	3508 研究室 (大城)、3510 研究室 (田中)。 メールにてアポイント：大城 <shohei-o@seirei.ac.jp>、田中<natsumi-t@seirei.ac.jp>				

科目名	発達障害リハビリテーション学
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	児童福祉法、特別支援教育における発達支援を学ぶ。また、こども園や保育所、学校における生活の理解を深め、実践的な学びを通じて、クライアントに対する高度な専門知識の習得と実践を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉法、特別支援教育制度を理解する ・ こども園や学校におけるコンサルテーション ・ 地域における最新のリハビリテーション技術やエビデンスに基づく支援方法を理解する ・ 評価から支援までの一連のプロセスを理解する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 伊藤信寿</p> <p>第1回：昨今の発達支援について 第2回：児童福祉法、特別支援教育について 第3回：エビデンスに基づく発達領域作業療法について① 第4回：エビデンスに基づく発達領域作業療法について② 第5回：園や学校におけるコンサルテーションについて 第6回：園における作業療法の展開について① 第7回：園における作業療法の展開について② 第8回：園における作業療法の展開について③ 第9回：学校における作業療法の展開について① 第10回：学校における作業療法の展開について② 第11回：学校における作業療法の展開について③ 第12回：障害児通所施設における作業療法の展開について① 第13回：障害児通所施設における作業療法の展開について② 第14回：障害児通所施設における作業療法の展開について③ 第15回：臨床現場における実践について</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第6回～第14回 実務家教員や実務家による授業：第1回～第5回、第15回</p>

学修方法	講義、ディスカッション、レジュメ作成、発表				
評価方法	授業・ディカッションへの参加（発言内容、理論性、態度）：50%、発表とレジュメ：50%				
課題に対するフィードバック	ディスカッションとレジュメ、発表にて、自分の研究疑問を深めるようにコメントする				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	資料、参考書、文献を読み、レジュメにまとめる				
オフィスアワー	所属学：リハビリテーション科学研究科 研究室：3514 時間等：オリエンテーションの時に提示します 上記以外でも（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください				

科目名	疼痛科学リハビリテーション学
科目責任者	金原 一宏
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	本講義では、疼痛のメカニズム、評価法、リハビリテーションアプローチについて、より深く、専門的に学びます。大学院レベルとして、最新の研究動向やエビデンスに基づいた疼痛管理（治療法）について議論し、臨床現場で応用できる知識と技術を習得することを目指します
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛のメカニズム（侵害受容、神経伝達、中枢感作、情動・認知との相互作用など）を詳細に説明できる。 2. 疼痛の種類（侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛など）を鑑別し、それぞれの病態生理に基づいた治療戦略を立案できる。 3. 様々な疼痛評価法（VAS、NRS、McGill Pain Questionnaire、DN4、PainDETECT など）を適切に選択し、実施・解釈できる。 4. 疼痛に対するリハビリテーションアプローチ（運動療法、徒手療法、物理療法、認知行動療法など）の理論と実践を習得し、患者の
授業計画	<p><担当教員> 金原一宏、寺田和弘、酒井直人</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 疼痛のメカニズム（侵害受容、神経伝達、中枢感作、末梢神経・脊髄・脳の可塑性） 金原一宏 2 疼痛と情動・認知の相互作用（不安、恐怖、抑うつ、破局的思考など） 金原一宏 3 疼痛の種類と疼痛評価①（侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛、混合性疼痛、問診、身体所見、心理評価、画像検査など） 金原一宏 4 疼痛の種類と疼痛評価②（侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛、混合性疼痛、問診、身体所見、心理評価、画像検査など） 金原一宏 5 運動療法、徒手療法、物理療法（運動学的・神経生理学的アプローチ、関節モビライゼーション、筋膜リリース、神経モビライゼーション 温熱療法、寒冷療法、電気刺激療法、超音波療法など） 金原一宏 6 疼痛治療における患者教育と疼痛治療における多職種連携（コミュニケーションスキル、医師・看護師・心理士・作業療法士など） 金原一宏 7 頭痛のリハビリテーション① 酒井直人 8 頭痛のリハビリテーション② 酒井直人 9 めまいのリハビリテーション① 酒井直人 10 めまいのリハビリテーション② 酒井直人 11 慢性疼痛のリハビリテーションとインジェクション治療① 寺田和弘 12 慢性疼痛のリハビリテーションとインジェクション治療② 寺田和弘 13 難治性疼痛疾患の治療と疼痛管理① 寺田和弘 14 難治性疼痛疾患の治療と疼痛管理② 寺田和弘 15 まとめ 金原一宏 <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回</p>

学修方法	第1回～6回まで、疼痛治療に関するリハビリテーションの知識と評価および技術を学修します。7回から15回は、より専門的分野を学修します。講義では、痛みのスペシャリストである医師と議論します。				
評価方法	課題の取り組み (50%)、プレゼンテーション (50%)				
課題に対するフィードバック	各担当教員より、発表とディスカッションの際、フィードバックする				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	<p>続 運動機能障害症候群のマネジメント 頸椎・胸椎・肘・手・膝・足 Shirley A. Sahrman 著 /竹井仁・鈴木勝 監訳 医歯薬出版</p> <p>バトラー・神経系モビライゼーション 触診と治療手技 著者 David S. Butler 著 伊藤直栄 監訳 齊藤武利 訳 阪井康友 訳 白井正樹 訳 中村 浩 訳 増本正太郎 訳 吉原裕美子 訳 協同医書出版社</p> <p>骨格筋の形と触察法 改訂第2版 著者：河上敬介・磯貝香 他 大峰閣</p> <p>アナトミー・トレイン 第4版 Web 動画付 徒手運動療法のための筋膜経線 Thomas</p>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	測定機器の原理、先行研究での測定方法、信頼性と妥当性の検証などを理解し、測定を実施する				
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。				

科目名	スポーツリハビリテーション学
科目責任者	根地嶋 誠
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	スポーツ領域におけるリハビリテーションについて総論的に学ぶ。スポーツ外傷および障害の疫学、発生機序、症状と経過、後遺症と合併症などの理解と共に、競技復帰までのプロセスを理解する。
到達目標	1. スポーツ活動で生じる傷害の疫学、発生機序、症状と経過、後遺症と合併症など病態を理解する。2. スポーツ活動で生じる傷害に対し、競技復帰のプロセス、評価と治療を理解する。
授業計画	<p>第1回： スポーツ傷害のリハビリテーションの考え方を理解する。 根地嶋</p> <p>第2回： メディカルチェックの考え方を理解する。 根地嶋</p> <p>第3・4回： 肩関節のスポーツ傷害 根地嶋 (投球障害、肩関節周囲炎など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第5・6回： 肘関節のスポーツ傷害 根地嶋 (投球障害、骨折脱臼など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第7・8回： 脊柱のスポーツ傷害 齊藤 (腰痛など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第9・10回： 股関節のスポーツ傷害 齊藤 (単径部痛など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第11・12回： 膝関節のスポーツ傷害 齊藤 (前十字靭帯損傷など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第13・14回： 足関節のスポーツ傷害 齊藤 (足関節捻挫など) 病態の理解とリハビリテーション (評価と治療)</p> <p>第15回： まとめ 根地嶋</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回 実務家教員や実務家による授業：第1～15回</p>

学修方法	各回のテーマに関するプレゼンテーション、討論・意見交換を行いながら進めます。				
評価方法	プレゼンテーションと討論・意見交換への参加（70%）、レポート提出（30%）によって評価します。				
課題に対するフィードバック	授業中の討論・意見交換によって行います。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前に関連の書籍、論文等読み、一定の理解をしてから参加し、積極的に議論・意見交換に参加できるよう備える。				
オフィスアワー	随時受け付けます。メール（ makoto-n@seirei.ac.jp ）でアポイントを取ってください。				

科目名	インストラクショナルデザイン特論
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる 3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	インストラクショナルデザイン(ID)は、教育や研修等の活動を効果的且つ効率的なものとするための技術や方法を対象とした学問分野です。心理学や情報学等の知見に基づき、教授法を体系的なアプローチを用いて科学的に追究しようとするところに特徴があります。本授業では、受講者が ID の基礎的な原理や理論を理解し、有益な研修や教材の設計・開発に適用できるようになることを目標とします。
到達目標	1. ID の意味や意義が説明できる。 2. ID の基本的な原理や理論が説明できる。 3. ID の知見に基づく授業・研修や教材を独自に設計・開発することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1部 ゴール・学習目標の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス, 教育観の変遷 ・第2回 インストラクショナルデザイン(ID)の概要 ・第3回 学習目標の明確化 ・第4回 ブルームの教育目標分類学 (Taxonomy) <p>第2部 課題分析とインストラクションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回 精神運動的領域における手順分析 ・第6回 認知的領域における階層分析 ・第7回 ガニエの9教授事象 ・第8回 インストラクション設計演習 <p>第3部 魅力あるインストラクションのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回 学習評価 ・第10回 ARCS 動機付けモデル ・第11回 協調学習の方法 ・第12回 ジグソー法を用いた協調学習演習 <p>第4部 総合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回 学習目標設定 ・第14回 課題分析と展開 ・第15回 成果発表 <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1～15回</p>

学修方法	ショートレクチャー ⇒ ディスカッション ⇒ プレゼンテーション ⇒ まとめを繰り返しながら授業を進め、最後にレポートやリアクションペーパーを作成する。				
評価方法	レポート課題 (50%), プレゼンテーション (50%) により評価する。				
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションについては即時フィードバックを行い、レポート課題やリアクションペーパーは学習管理システムを用いて授受を行う。リアクションペーパーに書かれた意見や質問には次の授業で回答する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
授業設計マニュアル 教師のための インストラクショナル デザイン Ver. 2	稲垣 忠 編著	北大路書房	2200	9784762828836	1
事前・ 事後学修	事前学修として次回の学習範囲に係る主教材に目を通しておくこと。事後学修として授業内容を復習して理解を深めること。目安時間 40 分。				
オフィス アワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 11 時～12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。				

科目名	リハビリテーション教育演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 通年
科目の位置付	2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる
科目概要	① 本科目は、以下の3つの点における基礎的知識を、演習を通して学修することを目的としている。教育・学習プログラムの企画立案・運営、②学生・医療者・教職員を指導し、学習・教育効果を高める、③学習者・プログラム評価に精通し実行できる、組織内外のコミュニケーションを図り、リーダーシップを発揮する。
到達目標	・医学教育に関する原則、理念、理論、エビデンスを理解する。・医学教育における基礎的の知識を活用して教育活動を分析し、改善のための計画を立案方法について理解する。・学識ある実践の基本を修得する。・コースでの学び、考え方を実践に生かした結果を、その後の「教育実践・振り返り」として報告できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1-4 回：教授法と学習 学習原理、成人教育、専門職教育教授法と学習 中島ともみ・吉本好延</p> <p>第 5-8 回：学習者評価 試験、成績評価、学習成果・コンピテンシー測定 中島ともみ・吉本好延</p> <p>第 9 回：理学療法士教育における問題 吉本好延</p> <p>第 10 回：作業療法士教育における問題 伊藤信寿</p> <p>第 11 回：言語聴覚士教育における問題 柴本 勇</p> <p>第 12-14 回：カリキュラム開発・評価 ニーズ評価, 立案 (アウトカム, モデル) 導入・運営, 評価 吉本好延</p> <p>第 15 回：まとめ 吉本好延</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1～15 回 実務家教員や実務家による授業：第 1～15 回</p>

学修方法	講義と演習、WebClass での課題提出と討議				
評価方法	提出された課題、討議内容で評価する				
課題に対するフィードバック	討議中のフィードバックとコメント				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	各回のテーマに沿った文献を読む				
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。				